

【居住者プロファイリングデータ 全国版】

中分類	中分類名	クラスター番号	クラスター名称	説明
A	都会居住者	1	都会の流行発信地	都心駅近くに分布する。核家族性因子が最も低く、20代単身比率が最も高い。外国人比率もかなり高い。マンション住まいで都市型産業従事者が多い。所得層は低く、男女独身者が最も多く、住民の入れ替わりが激しい。
		2	都会の富裕層	都心部に分布する。20代から40代の層が厚い。単身者が多いが、高額所得世帯が多く混在する。高学歴者が最も多い。都会居住者の中でも最も年収が高い。
		3	都会型ニューファミリー	都心部のクラスター1,2の周辺に分布する。乳幼児を持つ30代夫婦に特徴付けられる。都心部にかかわらず外国人比率はやや低い。
B	都市近郊居住者	4	ガテン系単身層、高資産混在型	都市近郊の製造業従事者が多い。20代30代比率が極めて高い。単身比率が高い。外国人や高卒者の比率が高い。所得層は高くないが、エリア内に高貯蓄者が混在している。
		5	マンション住まいのニューファミリー	都市近郊の団塊ジュニアニューファミリーが比較的多く居住する。高学歴者が多い。エリア内に高貯蓄者が混在している。
		6	念願のマイホーム	都市近郊のニューファミリーが多く存在している。高学歴者が多い。住宅を取得する世帯が増えるため純貯蓄額は高くはなくパート雇用者比率も高い。
		7	子育てを終えた都市近郊夫婦	都市近郊の団塊ファミリーが多く存在する。子の独立により夫婦のみ世帯が増えてくる。持家一戸建てが非常に多くなる。高所得者、高貯蓄者が多い。パート雇用者比率も高い。
C	高齢田園	8	近郊田園地帯	都市部にやや近い郊外に分布する。団塊世代が多く、田園型の中で唯一1次産業従事者が少ないエリア。夫婦のみ世帯が多い。
		9	公共事業依存型	郊外部に偏在している。50代建設業従事者が多く、低所得者低貯蓄者が多い。
		10	大家族兼業農家	高齢化が進む農業エリアにあって、比較的中高年齢が残存しているエリア。三世帯世帯比率がやや高い。製造業等の産業が存在するエリア
		11	高齢化兼業農家	高齢夫婦が目立つ兼業農家エリア
		12	高齢化傾向のある農村	高齢農業者の比率が高い郊外エリア。50代60代の比率が極めて高い。
		13	過疎農村	高齢農業者の比率が高い郊外エリア
		14	高齢夫婦のみ家族低所得農村	高齢農業者の比率が高い郊外エリア。やや所得層が低い。
		15	鉱業が盛んなエリア	鉱業従事者が最も多いエリア。高額貯蓄者が存在するエリア。
		16	有名な漁港	漁業従事者が最も多いエリア。やや所得層が低い。
17	林業山間部	林業従事者が最も多いエリア。高齢単身化が最も進んでいるエリア。20年以上居住者が最も多く、高額貯蓄者が存在するエリア。臨時雇用者比率は極めて低い。		
D	大家族田園	18	工場もある農村	高齢者・40,50代・10代の三世代大家族に特徴付けられる農村エリア。建設業・製造業等の産業が存在する。
		19	高齢三世代農村	高齢者・40,50代・10代の三世代大家族に特徴付けられる農村エリア。
		20	子供の多い農村	高齢者・40,50代・10代の三世代大家族に特徴付けられる農村エリア。三世代性が最も高く、幼児比率が高いエリア
		21	低所得大家族農村	高齢者・40,50代・10代の三世代大家族に特徴付けられる農村エリア。低貯蓄者が多い。
		22	低所得農漁村	高齢者・40,50代・10代の三世代大家族に特徴付けられる農村エリア。65～74歳のプレ団塊世代が厚い年齢構成、低所得・低貯蓄者が多い。
E	都市近郊型低所得層	23	都市近郊共働きニューファミリー	都市近郊に分布する。乳幼児比率が高い。持家世帯は少なく公営住宅居住者が多い。失業率は高く、パート勤務者が多い。
		24	都市型低所得層	都市近郊に分布する。持家世帯は極めて少なく公営住宅や長屋居住者が極めて多い。外国人比率も高い。失業率は極めて高く、運輸業従事者が多い。所得層は最も低く、貯蓄額は低い。住宅は狭小である。臨時雇用者比率が高い。
		25	都市近郊低家賃エリア	都市近郊に分布する。失業率は高く、医療福祉業従事者比率が高い。所得層は低い。
		26	失業率の高い団塊層	都市近郊に分布する。50～64歳の年齢構成比率が高い。建設業従事者が最も多い。失業率は最も高い。臨時雇用者比率は高い。長屋居住者が多い。所得層は低い。
F	製造業型	27	大手工場城下町	居住者の大半が製造業従事者である郊外エリア。安定した給与所得を背景に低貯蓄者は最も少ない。外国人就業者も多い。
		28	地方の工場に勤めるニューファミリー	居住者の大半が製造業従事者である郊外エリア。安定した給与所得を背景に低貯蓄者は少ない。10代の子を持つ核家族世帯が多い。
		29	歴史ある工場地帯	居住者の大半が製造業従事者である郊外エリア。高所得世帯が多い。三世帯比率が高い。
		30	田舎の製造業	三世帯比率が高い。世帯所得層はやや高い。世帯密度はかなり低い。

【居住者プロファイリングデータ 都市圏版】

中分類	中分類名	クラスター番号	クラスター名称	説明
A	都市マンション 住まい	1	ガテン系単身者	郊外に点在しており、若年単身層が多い。2次産業従業者比率が高い。年収水準は低く、人口密度が高く、住宅面積も低い。
		2	都市型ヤングファミリー	マンションに暮らす乳幼児を持つ若い夫婦。製造業従事者が多く、高所得者は少ない。
		3	マンション住まいニューファミリー	マンションに暮らす乳幼児を持つ若い夫婦。平均年齢は最も低く、都市居住の割には家が広く、年収レベルも高い。
		4	公団団地ニューファミリー	マンションに暮らす乳幼児を持つ若い夫婦。ニューファミリー層の中でも平均年齢は若干高め。建設業従事者が多く、失業率高め。年収レベルも低い。
		5	共働き家族	マンションに暮らす若い夫婦。情報通信など都市型産業従事者が多い。パート雇用の比率が高い。
B	工業従事 ファミリー	6	製造業城下町	2次産業就業者（製造業）が多く、その他の産業従事者は少ない。外国人労働者が多く、中学生以上の子を持つ家族が多いエリア。
		7	熟練労働者	2次産業就業者の割合が高めのエリア。貯蓄水準が高い。労働力人口が高い。
		8	工業系ファミリー層	2次産業就業者の割合が高めのエリア。5.6人世帯の割合が高く、三世代家族も多い。
		9	核家族型工業地域	2次産業就業者の割合がやや高め。核家族比率が高い。中高生の子供を持つ家庭が多い。
		10	工業従事三世代型	2次産業就業者の割合がやや高め。三世代家族が多い。居住期間が長い。
C	高齢化農村	11	農業以外の過疎エリア	85歳以上の人口構成比が高く、それ以外の人口は少ない。農村地方でありながら、就業状況は1次産業に偏っていない。
		12	過疎の漁港、鉱山	60歳以上の構成比が高く、それ以下の人口構成比は少ない。漁業、鉱業就業者が多い。
		13	観光エリア	60歳以上の構成比が高く、それ以下の人口構成比は少ない。飲食業、宿泊業就業者が極端に多い観光依存エリア。
		14	大家族農村型	高齢層が多いが、農村エリアの中でも比較的若年層の構成比が高い。
		15	農村部中心エリア	60歳以上の構成比が高く、それ以下の人口構成比は少ない。就業者は1次産業に偏っておらず、建設業、複合サービス事業など就業は幅広い。
		16	限界集落	65歳以上人口が極端に多く、それ以外の人口は逆に極端に少ない。典型的な限界集落。
D	近郊 高所得型	17	近郊新興都市	ニューファミリー層が多く住むエリア。核家族の構成が高い。高所得層のエリアの中では最も年収レベルが低い反面、平均年齢が最も低い新興都市。
		18	長距離通勤者	3-4人世帯の構成比が高い。50歳前後の人口構成が高いが、それ以外に大きな特徴はない。近郊型の中でも人口密度が低く、一戸建ての割合も高め。
		19	郊外型独身貴族	高齢層が少ない特徴があるものの、それ以外の人口構成に大きな特徴は無い。未婚率が比較的高い。都市型産業就業者が多く、比較的人口密度も高め。
		20	都市型独身貴族	20歳代の人口構成比が高く、人口密度も最も高い。高所得層と低所得層が混在している。未婚率が高い。学歴も最も高い。都市型属性が最も高いエリア。
		21	都市型成熟家族	50歳代の人口構成比が高い。近郊都市型の中で最も人口密度低く、住宅の一人当たりの延べ床面積が広い。都市型産業就業者の構成が低く、田園に近い郊外。
		22	子育てを終えた都市近郊夫婦	2-3人世帯の構成比が高く、60歳前後の人口構成が高いものの、20歳未満の人口構成は低い。近郊型の中でも最も労働力人口が低い。
		23	住込み労働者	60歳前後の人口構成が高い。単身世帯が多く、間借世帯が最も多いエリア。1500万円以上の年収世帯が最も多い。
E	豊かな農村	24	農業以外の産業のある町	50歳代の人口構成が高い。農村エリアの中で2次産業、3次産業の就業者の割合が高く、人口密度や住宅の一世帯あたりの延べ床面積も低め。
		25	農村中心都市	5人以上の世帯数が多く、持ち家世帯が多いエリア。農村のエリアの中でも若年層の構成比が高め。
		26	衰退型農村	大家族型であるが若年層が少なく、高齢層が多い。労働力人口も低め。
		27	農産物の名産地	農村型の中でも最も年収レベルが高く、労働力人口も高め。就業は1次産業に偏っており、農村型でありながら若年層の構成比も高め。
		28	沿岸、山間地域	林業、漁業の就業者が多い。人口密度はきわめて低く、高齢農業地の傾向が高い。
F	都市型 低所得層	29	公営借家低所得型	公営の借家住まいの構成比が極端に高い。年収、貯蓄レベルは低く、失業率も高い。都市周辺に点在しており、人口密度は高い。
		30	学生街	単身世帯の構成比が極端に高く、民営の借家に住む割合が高い。20歳前後の人口構成比が高い。

【居住者プロファイリングデータ 地方圏版】

中分類	中分類名	クラスター番号	クラスター名称	説明
A	都市居住型	1	学生、若手社員居住エリア	若年層の人口構成比が高く、都市型産業への就業者が多い。未婚、単身層が非常に多く、年収貯蓄レベルは低い。
		2	都会派ホワイトカラー	25-40歳の人口構成が高く、未婚、単身層が高め。3次産業の就業者が多く、学歴も最も高い。
		3	地方中心都市型ニューファミリー	0-9歳の人口構成が高い、典型的なニューファミリー型。借家住まいが多い。3次産業就業者が多い。人口密度が高い。
B	都市近郊ファミリー層	4	郊外ガテン系	20-34歳の人口構成比が高く、2次産業就業者が非常に多く、単身世帯が多い。
		5	近郊ニューファミリー	30-39歳、0-4歳の構成比が高いニューファミリー型エリア。学歴が高め。賃貸住宅に住む割合が高い近郊のニュータウン。
		6	近郊ホワイトカラーファミリー	35-44歳、0-14歳の構成比が高く、核家族の割合が高い。3次産業の就業者比率が高い。
		7	活気が無くなりつつある近郊都市	人口密度が比較的高い近郊都市型でありながら、都市型産業の就業者が発達しておらず、年収、貯蓄レベルともに低め。失業率も高い。
		8	公共事業依存型	50-64歳の人口構成比が高い。建設業就業者の割合が高く、失業率が最も高い。年収、貯蓄レベルがともに低い。
		9	パラサイトシングル	3-4人世帯の構成比が高い。年収、貯蓄レベルはともに高い。夫婦と子の割合が高め。
		10	中流保守層	年収、年齢ともに平均的なエリア。3次産業就業者が高め。核家族の割合が高い。
		11	過疎移行型	50-59歳の人口構成が高いが、それ以下の層の人口構成が極端に低い。近郊型の中でも人口密度は低め。
		12	世代混在型	人口密度は近郊都市の中で最も低め。
		13	地方都市近郊型、年金暮らしの老夫婦	60歳以上の人口構成が高い。労働力人口は低い。夫婦のみの世帯が多い。
C	高齢化農村	14	観光名所のある田園都市	農村の中でも飲食業、宿泊業の就業者が多いエリア。
		15	サービス業のある農村	高齢農村の中でも平均年齢は最も低い。また、農村の中ではサービス産業への就業者が多い。
		16	年金受給者	60歳以上の年齢構成比が極端に高い。労働力人口も低いが、農村の中でも貯蓄レベルは最も高い。
		17	山間、沿岸過疎	林業、漁業の就業者が極端に多いエリア。65歳以上の人口構成比が極端に高い。
		18	超高齢過疎	労働力人口が最も低いエリア。人口構成のほとんどが65歳以上。
D	製造業エリア	19	歴史ある工場地域	製造業の就業者が最も高いエリア。親の代は45-49歳が多く、子の代は15-19歳の割合が多い。工業都市でありながら居住年数は比較的長い。貯蓄、年収ともに非常に高い。
		20	企業城下町	夫婦と子の世帯の割合が高い。貯蓄、年収ともに非常に高い。小中学生の子を持つ家族が多い。
		21	大家族工業地帯	4人以上世帯数が多いエリア。2次産業就業者が多い。三世代世帯が多い。
		22	過疎傾向の工業地帯	若年層の人口構成が低くなりつつあるエリア。2次産業就業者が比較的高い。
		23	工業、農村混在型	製造業エリアの中でも農業の就業者が多いエリア。製造業エリアの中では人口密度も低い。
E	大家族農村	24	農村三世代住宅	5人以上世帯の割合が高い。農村の中では比較的1次産業の構成比が低い。
		25	田園住宅地	大家族が多く、人口密度の低い農村に点在するが、1次産業就業者は少なく、居住年数も比較的短い。
		26	農村中心地域	労働力人口が最も高く、1次産業就業者が多い。農村の中で最も年収が高いエリア。
		27	子供のいる農村	農村の中で平均年齢が低い。農業、漁業の就業者が多く、労働力人口が高いが、貯蓄レベルは低い。
		28	壮年就業農村	親の代が65-74歳、子の代が40-49歳が多い。労働力人口が比較的高く、漁業の就業者が多い。
F	低所得層	29	郊外低所得	ニューファミリーが多く、借家住まいの割合が高い。年収、貯蓄レベルはともに低い。
		30	地方都市型低所得	地方都市周辺に点在し、ニューファミリーが多い。公営借家住まいが極端に多く、年収、貯蓄ともに最も低いエリア

【居住者プロファイリングデータ 首都圏版】

中分類	中分類名	クラスター番号	クラスター名称	説明
A	郊外工業地域	1	中流階級	10-24歳、40-54歳の人口構成が高い。夫婦と子の世帯の割合が高い。郊外型工業地帯の中で最も2次産業就業者が少ない。
		2	郊外ブルーカラー	10-19歳、40-54歳の人口構成が高く、核家族の割合が高い。2次産業就業者の割合が高い。
		3	工場勤労者	製造業就業者の割合が最も高い。年収、貯蓄レベルともに低く、外国人労働者も多いエリア。
		4	活気が無くなった工業地	3-4人世帯の構成比が高く、核家族が多い。若年構成比が低く、郊外工業地域の中で最も平均年齢が高いエリア。
		5	多国籍勤労エリア	外国人就業者が多いエリア。年収、貯蓄レベルがともに低く、失業率も高いエリア。
		6	ガテン系ニューファミリー	ニューファミリーが多く、2次産業就業者が多い。近郊工業地域の中では最も人口密度が高く、平均居住年数が短い。
B	首都圏の農村	7	田舎の農村	5人以上の世帯が多い。農村の中でも比較的1次産業就業者の割合が低い。
		8	農産物の名産地	農村エリアの中で年収貯蓄ともに最も高いエリア。
		9	農業、漁業以外に産業がない町	1次産業就業者が最も高いエリア。学歴が低く、居住年数が最も長い。若年層が少なく、平均年齢が高い。失業率も高い。
		10	工場もある農村	農村にありながら、2次産業就業者が多いエリア。農村エリアの中で年収、貯蓄が低いエリア。
		11	活気が無くなりつつある農村	農村エリアの中で平均年齢が高いエリア。労働力人口は最も低い。年収、貯蓄ともに低い。
C	都心富裕層	12	近郊富裕層	共同住宅に住む割合が高い。都心エリアの中では人口密度が低い。
		13	下町富裕層	高所得層と低所得層が混在するエリア。3次産業就業者が多いが、失業率も高い。
		14	新興富裕層	都心エリアの中で最も平均年齢が低いエリア。乳幼児が増えており、新興エリアといえる。学歴が高く、都市型産業就業者の割合が高い。
		15	都会のセレブ	年収、貯蓄ともに最も高いエリア。マンション住まいが多い。
D	近郊ニューファミリー	16	念願のマイホーム	小学生前後の子を持つ世帯が多い。夫婦と子の割合が高い。近郊エリアの中で持ち家世帯の割合が最も高い。
		17	都市型低所得層	年収、貯蓄レベルが最も低いエリア。公園、公営の借家居住者が多い。失業率も高い。
		18	近郊ニューファミリー(低所得)	ニューファミリーが多いエリア。運輸業、建設業就業者が比較的多い。年収レベルは低い。
		19	近郊ニューファミリー(高所得)	ニューファミリーが多いエリア。3次産業就業者の割合が若干高く、年収レベルもやや高い。
		20	社宅住まい	社宅住まいが多い。年収は少ないが、貯蓄レベルはきわめて高い。単身世帯が多く、未婚率が高い。
		21	都市型ニューファミリー	6歳未満の子供のいる世帯が最も多いエリア。マンション住まいが多く、居住年数が短い。
		22	インテリタウン	金融、情報通信の都市型産業就業者の割合が極端に高い。学歴が高い。
E	田園都市	23	田舎の老夫婦	漁業就業者が多い。50歳以上の年齢構成比が高く、2人世帯が多い。居住年数は長い。
		24	子育てを終えた郊外型家族	50歳以上が多い。夫婦と子の世帯が多いが子の年齢は比較的高い。
		25	近郊型老夫婦	田園都市の中で平均年齢の高いエリア。
		26	過疎	田園都市の中で平均年齢が最も高いエリア。労働力人口は最も低い
		27	豊かな田園暮らし	年収、貯蓄ともに高い。3次産業就業者が多く、学歴が高い。
		28	田舎での隠居暮らし	労働力人口は少ないが、年収、貯蓄ともに高い。平均年齢は高い。
F	郊外の農工業	29	活気がなくなった農村	1次産業就業者が極めて高いが、失業率も高い。平均年齢が高く、老夫婦のみの世帯が多い。
		30	山奥のブルーカラー	労働力人口が少ない。林業就業者と2次産業就業者が多く、平均年齢が最も高い。